

# IRcuresILLからliaisonプロジェクトへ ～リポジトリと図書館活動の接点を探して～

小樽商科大学 学術情報課 情報普及係  
南 絵里子

# 本日の内容

- Barrelについて
- IRcuresILLプロジェクトについて
- rliaisonプロジェクトについて

Barrelについて

# 小樽商科大学について



## 1. 小規模

➤ 教員数 128名

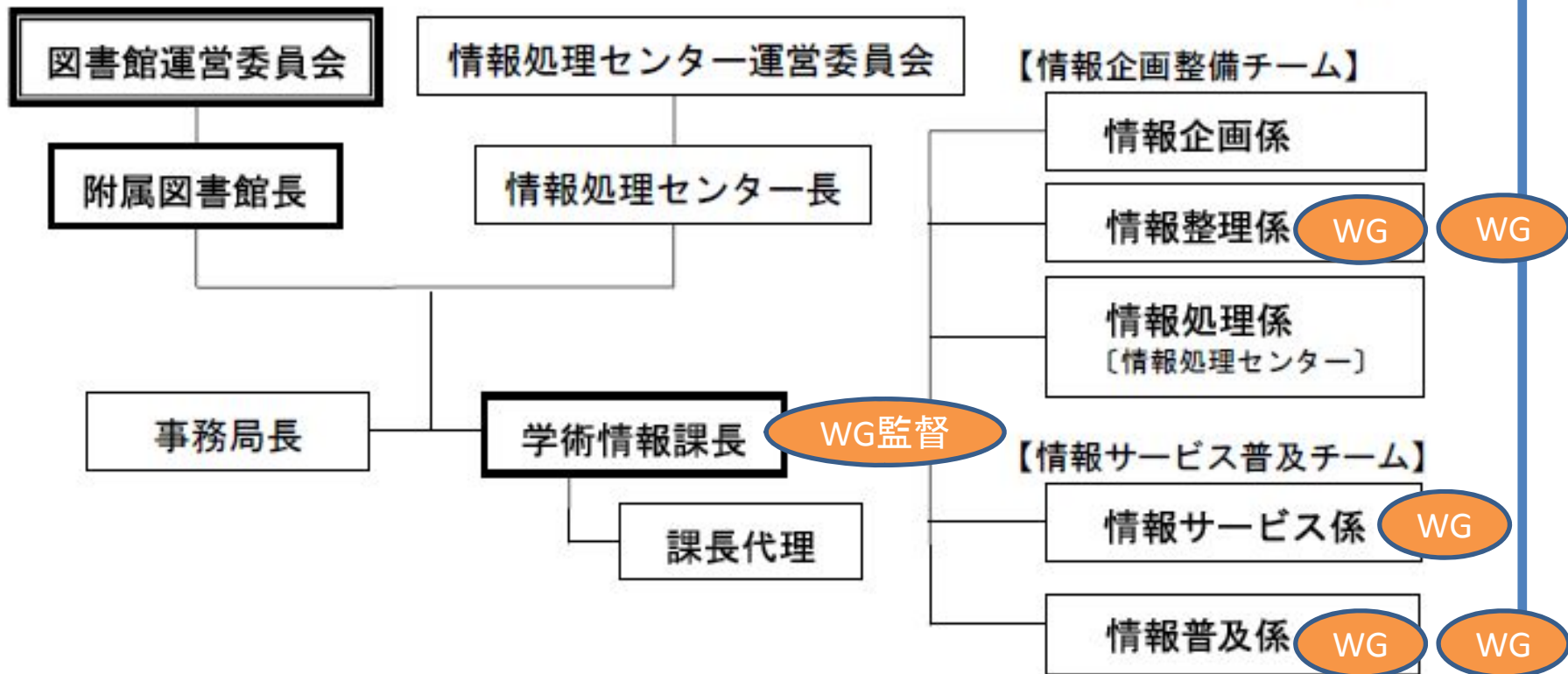
➤ 学生数 学部生：2337名、大学院生：124名

## 2. 1学部（商学部）

➤ ただし、学科構成は社会科学全領域に及ぶ  
経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科、  
一般教育系、言語センター、  
アントレプレナーシップ専攻（ビジネススクール）

# 小樽商科大学図書館について

(平成 20 年 4 月改組)



# 小樽商科大学学術成果コレクション

Otaru Univ. of Commerce Academic Collection



愛称 Barrel (=大きな樽)



小樽商科大学学術成果コレクション  
Otaru University of Commerce  
Academic Collections



Language: 日本語

小樽商科大学 | 附属図書館 | Barrel

検索

ホーム

Barrel >

### お知らせ

- [小樽商科大学学術成果コレクション開設3周年記念講演会のご案内](#)
- [ドラッカー特集](#)
- [Barrel登録記念インタビュー\(澤田芳郎先生\)を掲載しました](#)
- [3700件目は近藤公彦先生のPOS情報開示によるチャネル・パートナーシップの構築-コブさっぽろのケース-でした!インタビューを掲載しました](#)
- [Barrel登録記念インタビュー\(加藤敬太先生\)を掲載しました](#)
- [Barrel登録記念インタビュー\(福重八恵先生\)を掲載しました](#)
- [Barrel登録記念インタビュー\(保田隆明先生\)を掲載しました](#)
- [Barrel登録記念インタビュー\(小島陽介先生\)を掲載しました](#)
- [Barrel登録記念インタビュー\(石川業先生\)を掲載しました](#)
- [Barrel登録記念インタビュー\(南健悟先生\)を掲載しました](#)
- [3600件目は片桐由喜先生の韓国社会保障法制の特質と課題 : インフォーマル組織の役割とその限界でした!インタビューを掲載しました](#)
- [3500件目は八木宏樹先生のゴミのゆくえとビジネス : 「ゴミは資源」というデンマークのあり方でした!インタビューを掲載しました](#)
- [研究者 ページの一覧画面を作成しました!左のメニューから「研究者」をクリックしてごらんください。](#)

[過去のお知らせ](#)

[商学討究](#) [人文研究](#) [言語センター広報](#)

### 最新登録資料

片桐, 由喜 (2010) 地方経済との共存共栄. In *医療百論2010*: 164-166

片桐, 由喜 (2010) 制度の担い手. In *医療百論2010*: 161-163

片桐, 由喜 (2010) 知恵ある地方暮らし. In *医療百論2010*: 158-160

片桐, 由喜 (2010) セイフティネット再考. In *医療百論2010*: 154-157

### 記念インタビュー

- [登録記念インタビュー](#)  
~~新着~~  
[澤田芳郎先生\(CBC\)](#)
- [3700件目インタビュー](#)  
~~新着~~  
[近藤公彦先生\(アントレ\)](#)  
「前半はコブさっぽろの事例...
- [登録記念インタビュー](#)  
[加藤敬太先生\(商学科\)](#)
- [登録記念インタビュー](#)  
[福重八恵先生\(アントレ\)](#)
- [登録記念インタビュー](#)  
[保田隆明先生\(アントレ\)](#)
- [登録記念インタビュー](#)  
[小島陽介先生\(企業法学科\)](#)
- [登録記念インタビュー](#)  
[石川業先生\(商学科\)](#)
- [登録記念インタビュー](#)  
[南健悟先生\(企業法学科\)](#)

100件目 ~ これまでの  
[記念インタビュー一覧](#)

 [オープンアクセスウィーク](#)  
2010.10.18-24

本学研究紀要等

### ブラウズ

- [学科等](#)
- [タイトル](#)
- [著者](#)
- [資料種別](#)
- [日付](#)
  
- [研究者](#)

### 検索

- [詳細検索](#)

### 統計

- [利用統計](#)

### 学内の方へ

- [お問い合わせ](#)



# 小樽商科大学IR Barrelのこれまで

- 2007年04月 IR設置検討開始  
図書館内でWGグループ設置  
CSI応募
- 2007年07月 CSI受託決定
- 2007年08月 教員へのヒアリング
- 2007年11月 試験公開開始
- 2008年01月 収録文献100件突破、インタビュー開始
- 2008年03月 正式公開開始

# 教員の声を反映したシステム

## 検索結果の再利用

### 研究者ページ

研究者ページ: 片桐 由喜

#### Research

##### 社会福祉サービス利用契約をめぐる諸問題

片桐, 由喜 (2008) 社会福祉サービス利用契約をめぐる諸問題, *クォーターリー生活福祉研究*, 17(3): 4-16

##### 韓国社会保障法制の特質と課題 - インフォーマル組織の役割とその限界 -

片桐, 由喜 (2007) 韓国社会保障法制の特質と課題 - インフォーマル組織の役割とその限界 -, 平成17年度~平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(C)) (17530042)

##### 地産地消立国北海道めざして

片桐, 由喜 (2006) 地産地消立国北海道めざして, *フロンティア* 180, 56: 36-37

##### 韓国・社会保障法制の基盤形成過程: 所得保障制度を中心に

片桐, 由喜 (2005) 韓国・社会保障法制の基盤形成過程: 所得保障制度を中心に, *商学討究*, 56(1): 57-112

##### 韓国・占領体制下における社会保障制度

片桐, 由喜 (2004) 韓国・占領体制

##### 生活保護の開始申請と申請書交付拒

片桐, 由喜 (2002) 生活保護の開始  
78-84

##### 生活保護法における補正性の原則と預

片桐, 由喜 (2000) 生活保護法における補正性の原則と預貯金等の可否: 中嶋訴訟を参考に, *商学討究*, 55(1): 107-133

##### 過払いの年金給付の返還請求

片桐, 由喜 (2000) 過払いの年金給付の返還請求, 別冊ジュリスト「社会保障判例百選」, 153: 84-85



研究者情報: 片桐 由喜

教授

リンクのない文献も  
記載可能

教育分野

社会保障法

Barrel >

### 検索結果

検索対象: リポジトリ全体

キーワード

絞り込み

検索結果を出力

テキスト

出

検索結果表示: 1-10 / 18.

### 該当アイテム:

#### アイテム情報

#### 地産地消立国北海道めざして

片桐, 由喜 (2006-01)

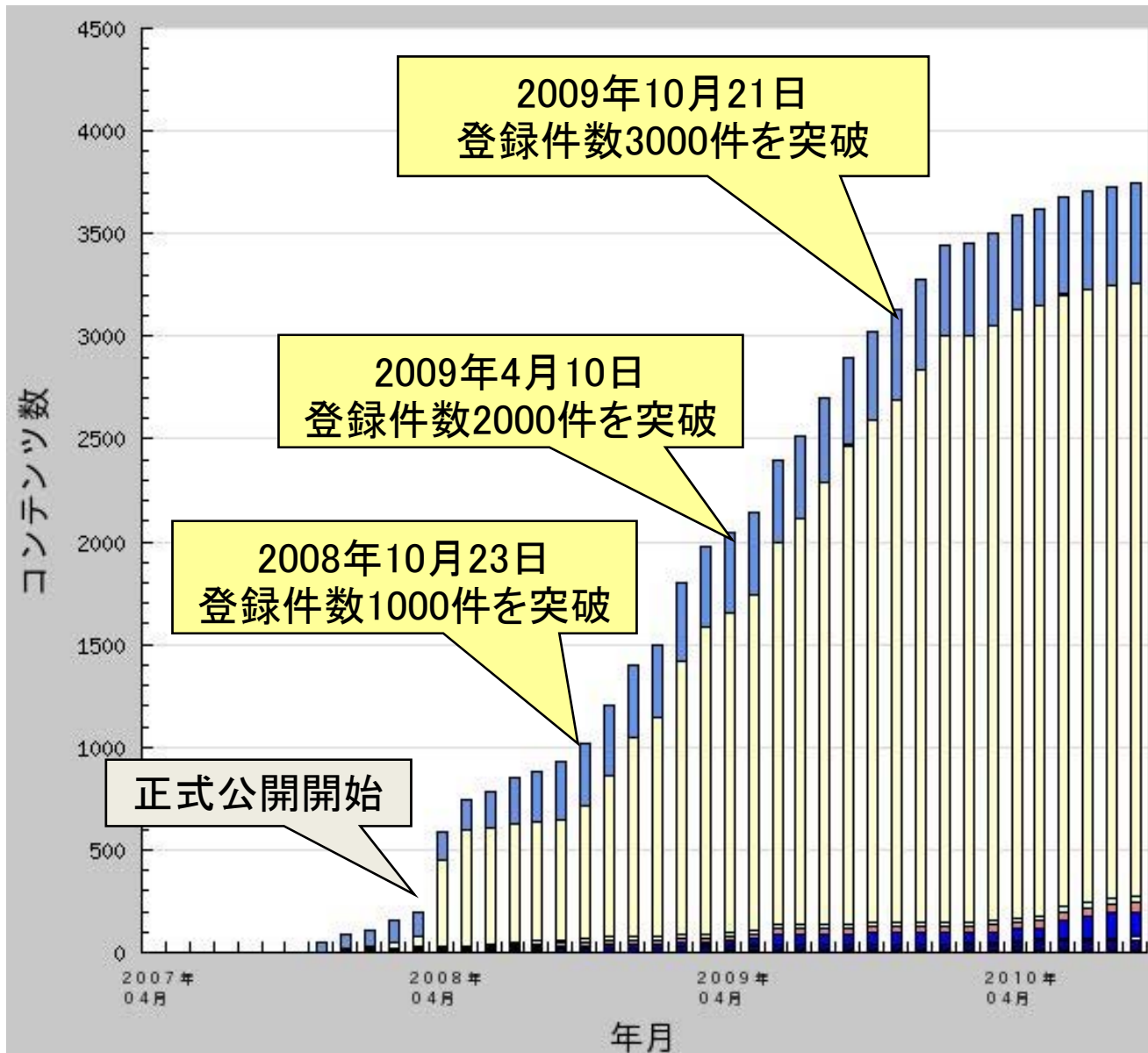
フロンティア 180, 56: 36-37

- 片桐, 由喜 (2006) 地産地消立国北海道めざして, *フロンティア*180, 56: 36-37
- 片桐, 由喜 (2010) 知恵ある地方暮らし, In *医療百論*2010: 158-160
- 片桐, 由喜 (2010) 制度の担い手, In *医療百論*2010: 161-163
- 片桐, 由喜 (2010) 地方経済との共存共栄, In *医療百論*2010: 164-166
- 片桐, 由喜 (2010) 医療費不安と医療保険制度, In *医療百論*2010: 150-153
- 片桐, 由喜 (2010) セイフティネット再考, In *医療百論*2010: 154-157
- 片桐, 由喜 (2002) 生活保護の開始申請と申請書交付拒否の可否, *資金と社会保障*, 1328: 78-84
- 片桐, 由喜 (1993) 労災保険法施行前の業務により同法施行後に発病した疾病等に対する労災保険法の適用の可否: 和歌山労基
- 片桐, 由喜 (1992) 企業年金規定(就業規則)の不利益変更における合理性の判断基準, *資金と社会保障*, 1088: 46-50
- 片桐, 由喜 (1994) 「居住実態不明」における保護廃止事由該当性の適否, *資金と社会保障*, 1131: 23-28
- 片桐, 由喜 (2008) 社会福祉サービス利用契約をめぐる諸問題, *クォーターリー生活福祉研究*, 17(3): 4-16
- 片桐, 由喜 (2000) 生活保護法における補正性の原則と預貯金等の可否: 中嶋訴訟を参考に, *商学討究*, 50(4): 157-166
- 片桐, 由喜 (1996) 老人保健法32条に基づく「医療費」支給の適用範囲: 海外出張期間分の薬剤費用請求の可否, *資金と社会保障*
- 片桐, 由喜 (1993) 明示の合意がない場合における自由診療報酬額, *資金と社会保障*, 1100: 24-30
- 片桐, 由喜 (2007) 韓国社会保障法制の特質と課題: インフォーマル組織の役割とその限界, 平成17年度~平成18年度科学研究
- 片桐, 由喜 (2004) 韓国・占領体制下における社会保障制度, *商学討究*, 55(2/3): 143-175
- 片桐, 由喜 (1993) イギリス国民保健制度の形成過程: 国民保健サービス法 (1946年) を中心として, 北海道大学大学院環境科
- 片桐, 由喜 (2005) 韓国・社会保障法制の基盤形成過程: 所得保障制度を中心に, *商学討究*, 56(1): 57-112

完了

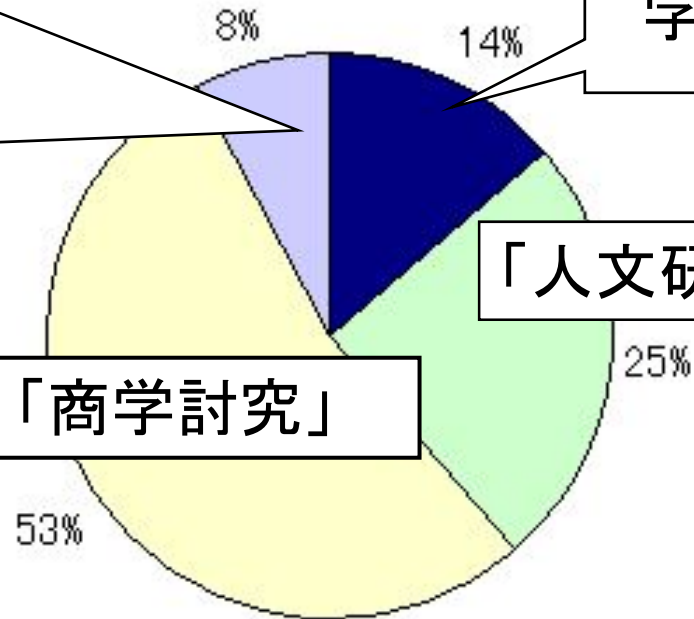


# 登録件数の推移



# コンテンツの内容

その他：  
CBCディスカッション  
ンペーパー  
言語センター広報  
図書  
学位論文  
会議発表資料等



登録文献数：3,786件

総ダウンロード回数：994,961回

コンテンツを登録した教員数の割合：85%（平成21年度末）

# 小樽商科大学IR業務の特徴

1. 図書館を利用する教員と図書館職員との距離が近い
2. 文系、和文が多く「著者版」概念が薄い



IRに登録されている「学術雑誌論文」488件における割合

# マンツーマン体制

## Barrelチームメンバーの変遷

	平19	平20	平21	平22
情報普及係長(主査)	鈴木	鈴木	鈴木	南
情報普及係員	中筋	中筋	南	長谷川
情報整理係長	首藤	鹿内	鹿内	鹿内
情報整理係員	南	南	中筋	中筋
情報サービス係長	-	猿橋	猿橋	猿橋

※平19年は情報普及係：参考係、情報整理係は整理係、情報サービス係は運用係

教員一人につき  
担当者一人体制

# 教員のことを知りたい、 図書館についても知ってほしい

- 🍷 登録100件ごとなど、節目となる論文の著者へのインタビュー
- 🍷 これまでに47回実施
- 🍷 インタビューを他の図書館活動にも活用

## いつも5つの質問

1. 登録〇件目の論文の内容を教えてください
2. この研究をはじめられたきっかけは何ですか？
3. 現在の研究について教えてください
4. Barrellに掲載された文献をどのような人に読んでもらいたいですか
5. Barrellについてご意見、感想をお願いします

# 全員野球的なBarrelチーム

複写、寄贈雑誌  
受入、スキャン等  
担当

閲覧カウンター、  
リテラシー教育等担当

雑誌担当、本学公式ブログ等  
担当



目録・図書館  
システム等担当

学術情報課長、  
Barrelチームの監督

目録・図書館  
システム等担当

ILL、参考調査、  
電子ジャーナル、  
DB等担当

# 従来型業務との接点

たとえば、IRとILLは似ているところがある…

従来の業務とIRを接近させ、両者を効率的／相互補完的に運用できないか？

IRcuresILLプロジェクトについて



# IRcuresILL

- CSI 領域2

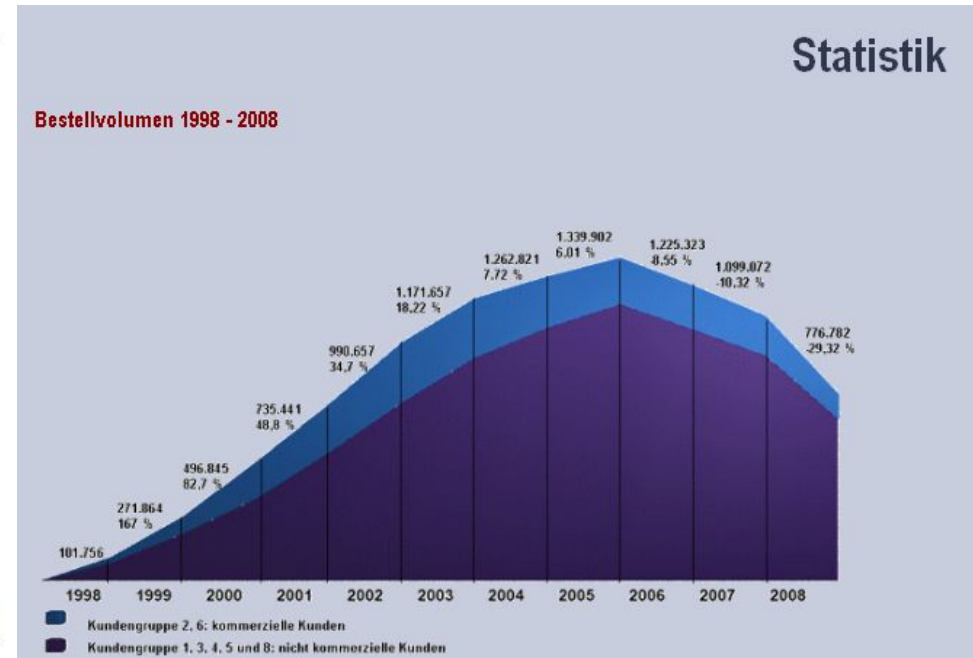
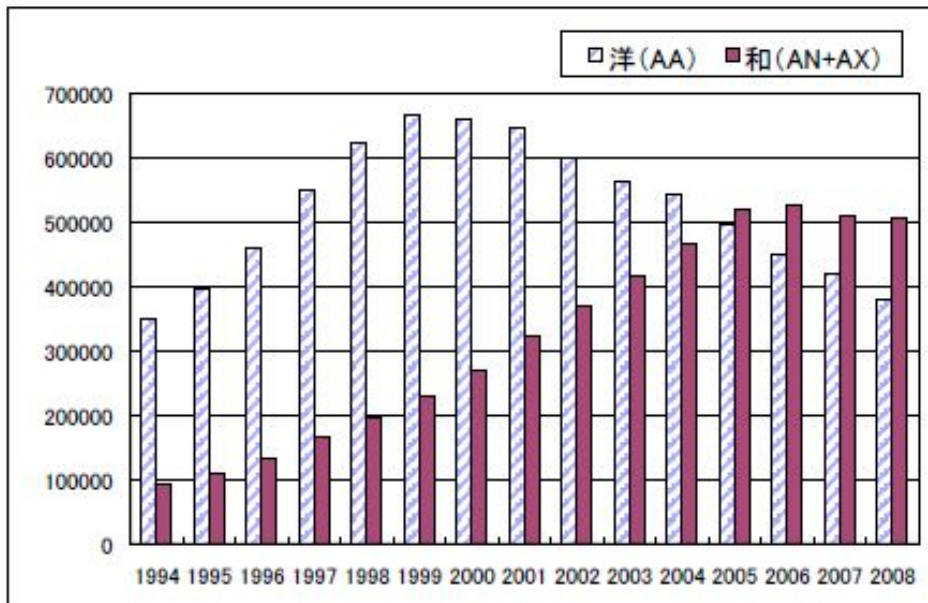
「学術情報資源共有のための図書館間文献  
デリバリーサービスを機関リポジトリ構築に  
よって代替するための教員・図書館連携方式  
の開発」

小樽商科大学・北海道大学・

千葉大学・金沢大学・大阪大学・広島大学

H20～21年度

# 文献供給サービスの量的推移



左: 日本(NACSIS-ILL)

<http://cogsci.l.chiba-u.ac.jp/~tutiya/Talks/071210Tyooken.pptx.pdf>

右: ドイツ(SUBITO)

<http://www.subito-doc.de/index.php?pid=Statistik>

# IRcuresILLのテーマ

- IR構築と、伝統的図書館活動との相互運用
- (背景) 電子情報流通の進展、研究情報入手環境の向上、ILL発生は減衰
  - IR登録文献の拡充によるOA加速は、さらなるILL抑止につながるのでは？
  - また逆に、繰り返されるILL発生を機関リポジトリの拡充に結びつけるには？
- 総合的な文献供給パフォーマンスの向上のために、誰が何をしていけばいいのか？

# 関心の所在

IRでは本学教員の書いた論文を無料で公開している。一方、ILL文献複写では1枚35円等費用を課している。

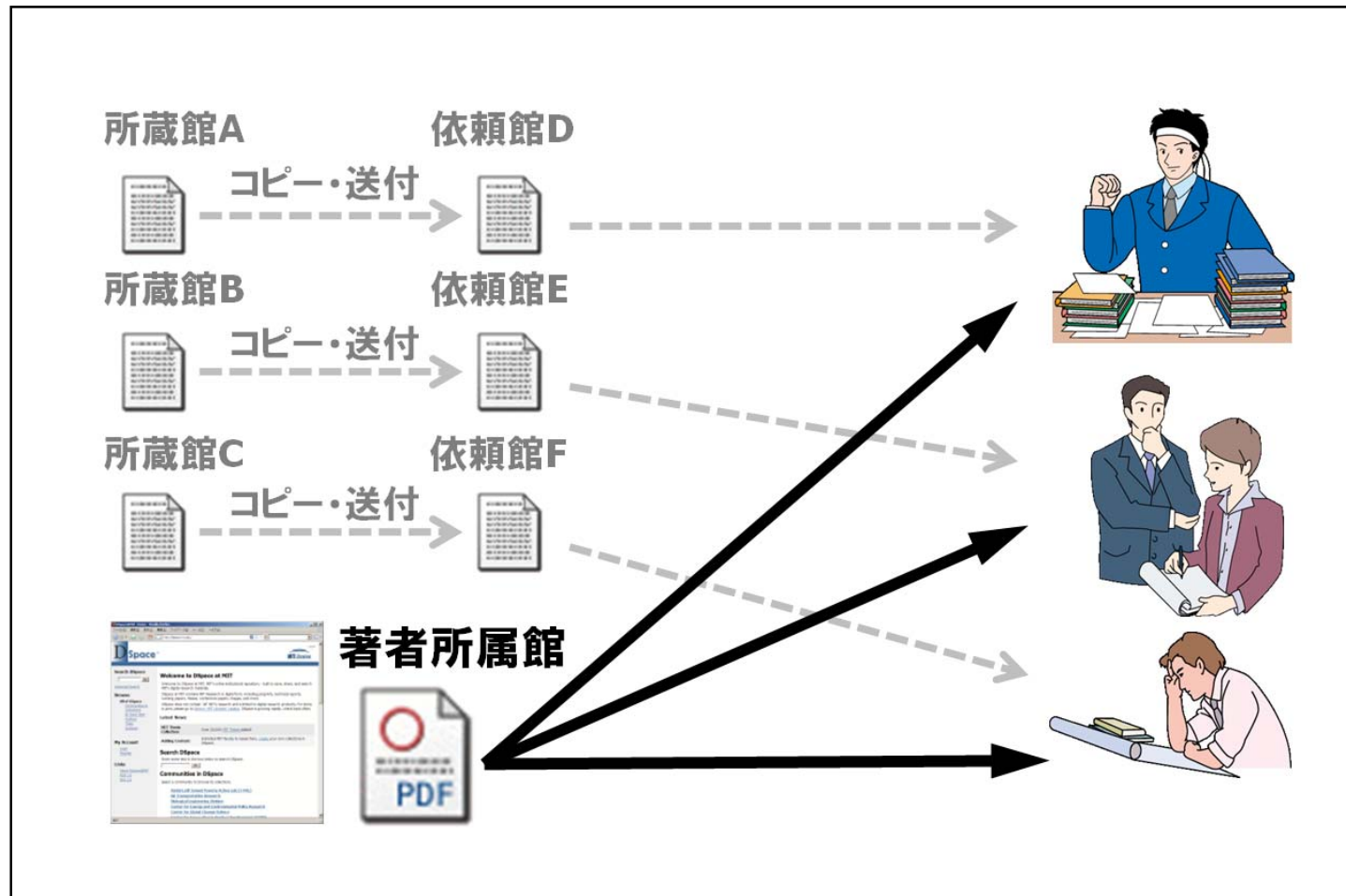
では、ILLで依頼されたのが本学教員の著作だったら？

先生方の書いた論文がより多く読まれることを業務上の喜びとするなら、オンライン(IR)だけでなくオフライン(ILL)でもどんどん無償サービスしたらよいのでは？

# ILLとIRの特徴比較

ILL	IR
雑誌危機対抗	雑誌危機対抗
図書館から図書館へ	著者から読者へ
著作権法(Publisher版)	Author Rights (多くの場合、著者稿)
大学、研究機関へ	大学、研究機関、それから市民へ
紙、郵送、要数日、35円前後	デジタル、オンライン、即時、0円
著者の知らないうちに	著者が主体的に
著者の知らないうちに	著者は読まれたことを知ることができる
要求があれば何度でも何度でもコピー作業が	一旦掲載すればその文献の潜在的な読者獲得も可能に
他人の文献を、他人へ	所属研究者の文献をその読者へ

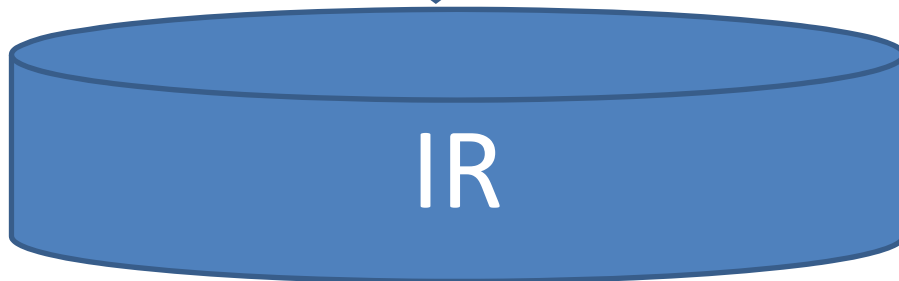
# 潜在的な需要への予測対処



# 無料ILL(文献複写)受付

小樽商科大学の研究者の書いた文献への  
複写依頼に無料で対応

ILL対象となった文献 : 実在の需要



# 無料ILL(文献複写)受付

- 56件の文献複写依頼を無料で受け付けた
- そのうち54件は、小樽商科大学の刊行物(紀要など)
- 一般誌掲載文献の依頼は2件のみ

著者の所属が不明であることが多く、どこに頼んだらいいかわからない！



# IRcuresILLアンケート

- IR/ILLの概念融合、相互運用への意識喚起
- 両業務担当者からの意見収集
- 平成20年11月6日～21日
- 中間報告書

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?IRcuresILL>

- ご協力ありがとうございました

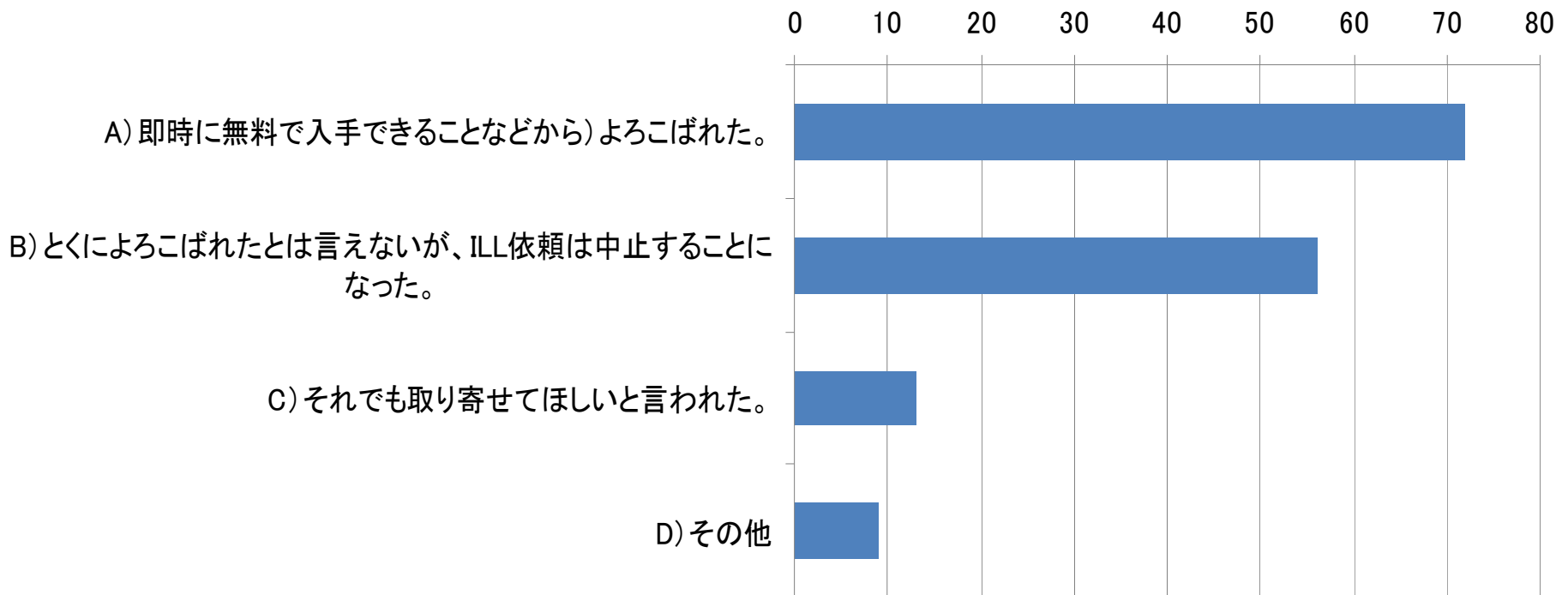
# IRcuresILLアンケート (ILL文献複写依頼担当者向け)

利用者からILL依頼の申込があった際、その論文がオープンアクセスになっていたことがありますか？



# IRcuresILLアンケート (ILL文献複写依頼担当者向け)

それをお知らせした際、申込者の反応はいかがでしたか？(複数回答可)

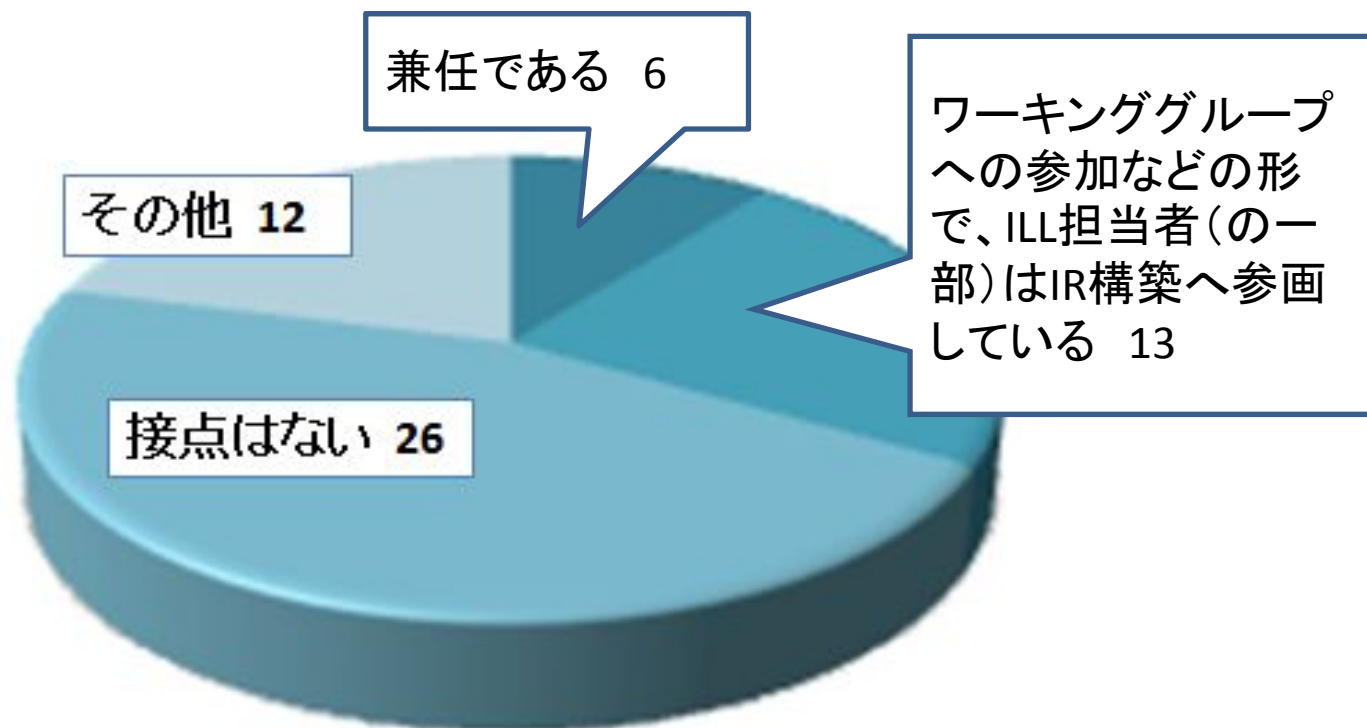


# ILL担当者から多かった意見

- OA増加により、利用者自身が即時に無料で必要な情報入手できる機会が増えるのは大変良い。
- ILL依頼件数は減っているが、OA文献がないかの調査、利用者との相談等、作業量はむしろ増えた。
- OA文献の周知不足、使い勝手の悪さを感じる。利用者への広報の必要性和アクセスのしやすさを望む。

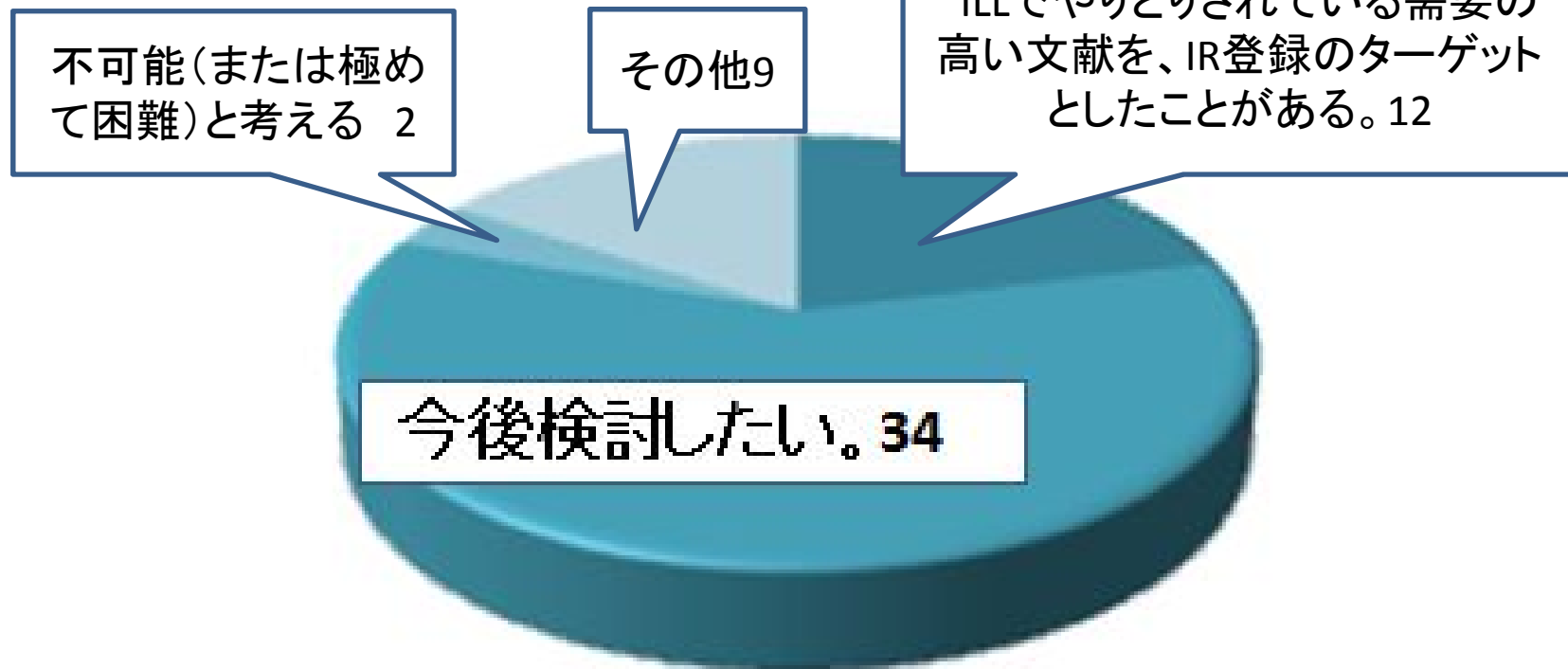
# IRcuresILLアンケート (機関リポジトリ担当者向け)

貴IRは、ILL担当者と業務上の連携・接点がありますか？



# IRcuresILLアンケート (機関リポジトリ担当者向け)

IR収録文献の総数はCiNiiに匹敵する規模となり、ILL申込みのあった文献が作業途中でネット上に見つかる、といったケースも増えてきています。一方逆に、所属研究者の著作文献のうち、ILLで実際にやりとりされている需要の高い文献を、優先的にIRに搭載するということも考えられます。このことについてどう考えますか。



# IR担当者から寄せられた意見

- うまいければ、ILL業務に費やしていた労力・時間を別の利用者サービスに充てられ、業務の効率化が図れる。
- 図書館が発信する学術情報が利用され、その一方その影響としてILLが減少することは、図書館が学術情報流通を創造的に変革することになり、大変意義の大きい活動であると考えます。
- ILLとIRを関連付けて考えることは、図書館が提供するサービスを総括的にとらえ、再構成を考えるためのきっかけになる。とは言え、**いかに実現していくべきか、その具体的プロセスがなかなか見えない。**

# 需要の高い文献とは？

NACSIS-ILLデータ  
3年間分（H18～20年度）  
に基づく分析



# 大量のリクエストが集中する 人気文献の存在

	Requested material	ILDD	Q*	R*	O*
1	坂野雄二ほか(1986). 一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み 行動療法研究, 12, 73-82	98	75	33	52
2	尾関友佳子(1993). 大学生用ストレス自己評価尺度の改定:トランスアクション的な分析に向けて 久留米大学大学院比較文化研究科年報, 1, 95-114	78	67	1	1
3	神村栄一ほか(1995). 対処方略の三次元モデルと新しい尺度(TAC-24)の作成 教育相談研究, 33, 41-47	67	55	27	43
4	鈴木伸一ほか(1997). 新しい心理的ストレス反応尺度の開発と信頼性・妥当性の検討 行動医学研究, 4, 22-29	65	54	4	4
5	牧野カツコ(1982). 乳幼児をもつ母親の生活と <育児不安> 家庭教育研究所紀要, 3, 34-56	57	50	30	75
6	鈴木安名(2005). 新卒看護師の職業性ストレス簡易調査票の分析 早期離職を防ぐには 病態生理, 39, 31-39	49	42	5	5
7	尾崎フサ子ほか(1988). 看護婦の職務満足質問紙の研究: Stampsらの質問紙の日本での応用 大阪府立看護短期大学紀要, 10, 17-24	47	25	15	53
8	土居内麻理(2006). 終末期がん患者の療養上の意思決定 高知女子大学看護学会誌, 31, 19-26	43	33	6	7
9	詫摩武俊ほか(1988). 愛着理論からみた青年の対人態度: 成人版愛着スタイル尺度作成の試み 東京都立大学人文学報, 196, 1-16	42	30	13	172
10	堀毛裕子(1991). 日本語版Health Locus of Control尺度の作成 健康心理学研究, 4, 1-7	41	34	17	42

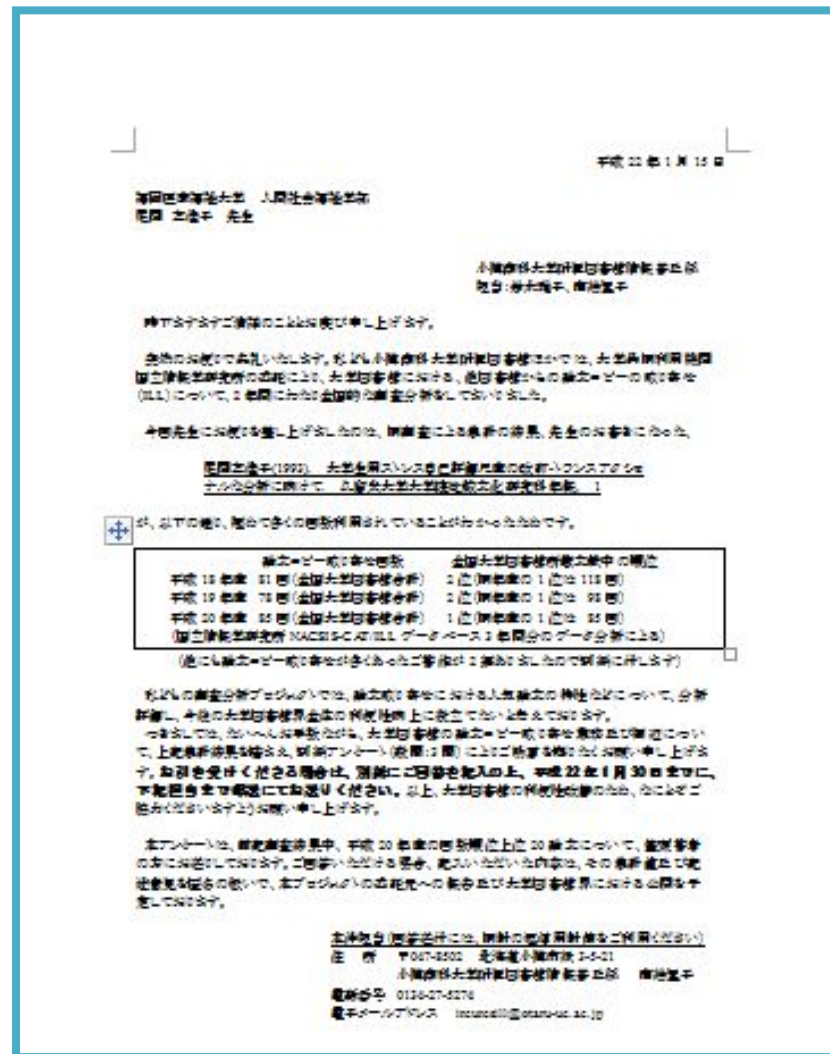
\* 依頼館(Q), 受付館(R), 所蔵館(O)

# 最上位クラスは年をまたいで安定

2006			2007			2008		
1	118	坂野ほか	1	98	坂野ほか	1	85	尾関
2	81	尾関	2	78	尾関	2	76	鈴木ほか
3	64	鈴木ほか	3	67	神村ほか	3	69	坂野ほか
4	60	神村ほか	4	65	鈴木ほか	4	58	神村ほか
4	60	牧野	5	57	牧野	5	50	牧野
6	50	中川	12	39	中川	31	29	中川

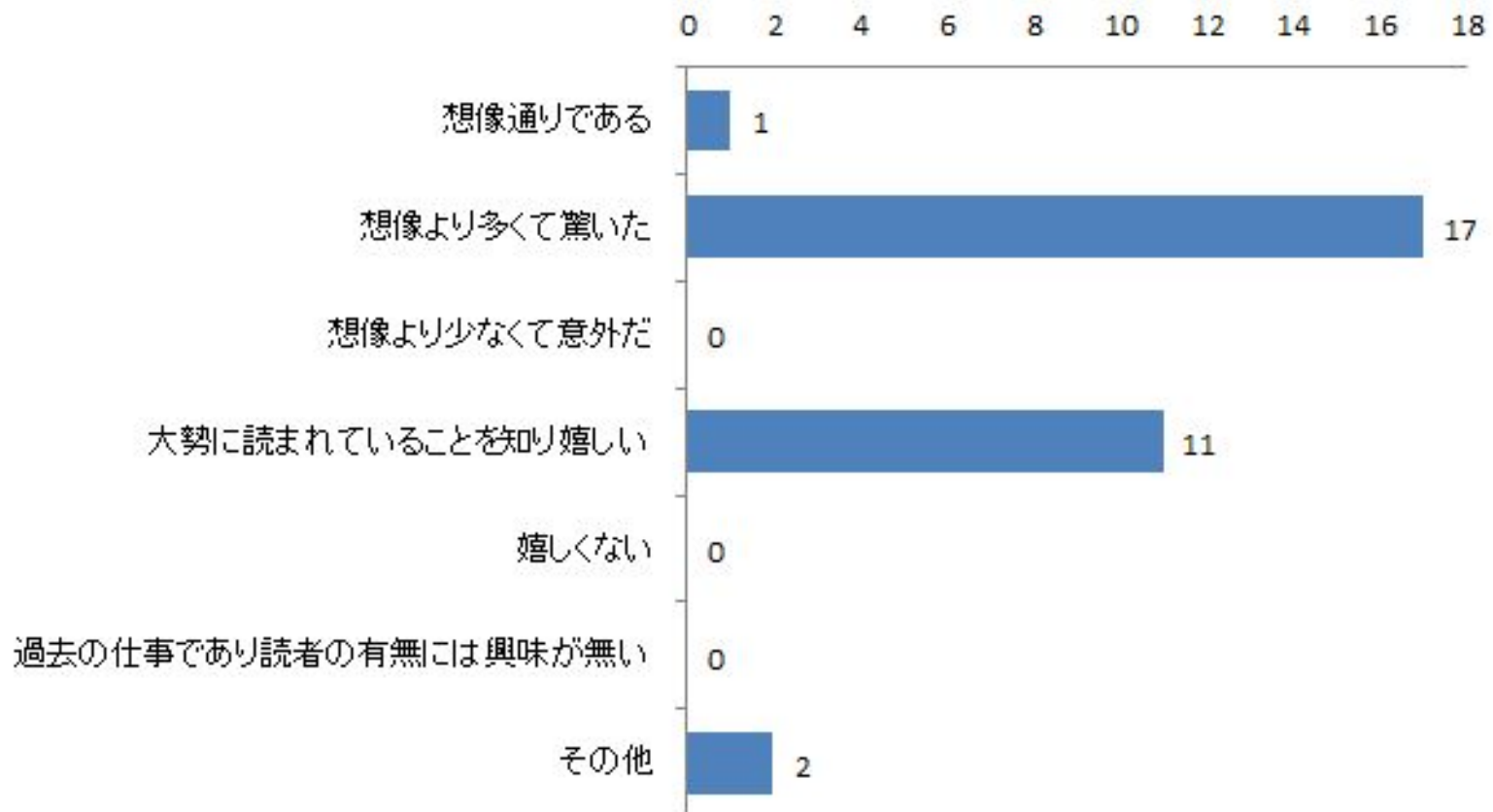
# 人気論文著者へのアンケート

- 平成20年度NACSIS-ILLデータによる人気論文の著者に送付
- 3年各年の回数(読者の数)をお知らせし、アンケートを同封
- 29名に送付し、21名から回答。(3名は宛先不明)



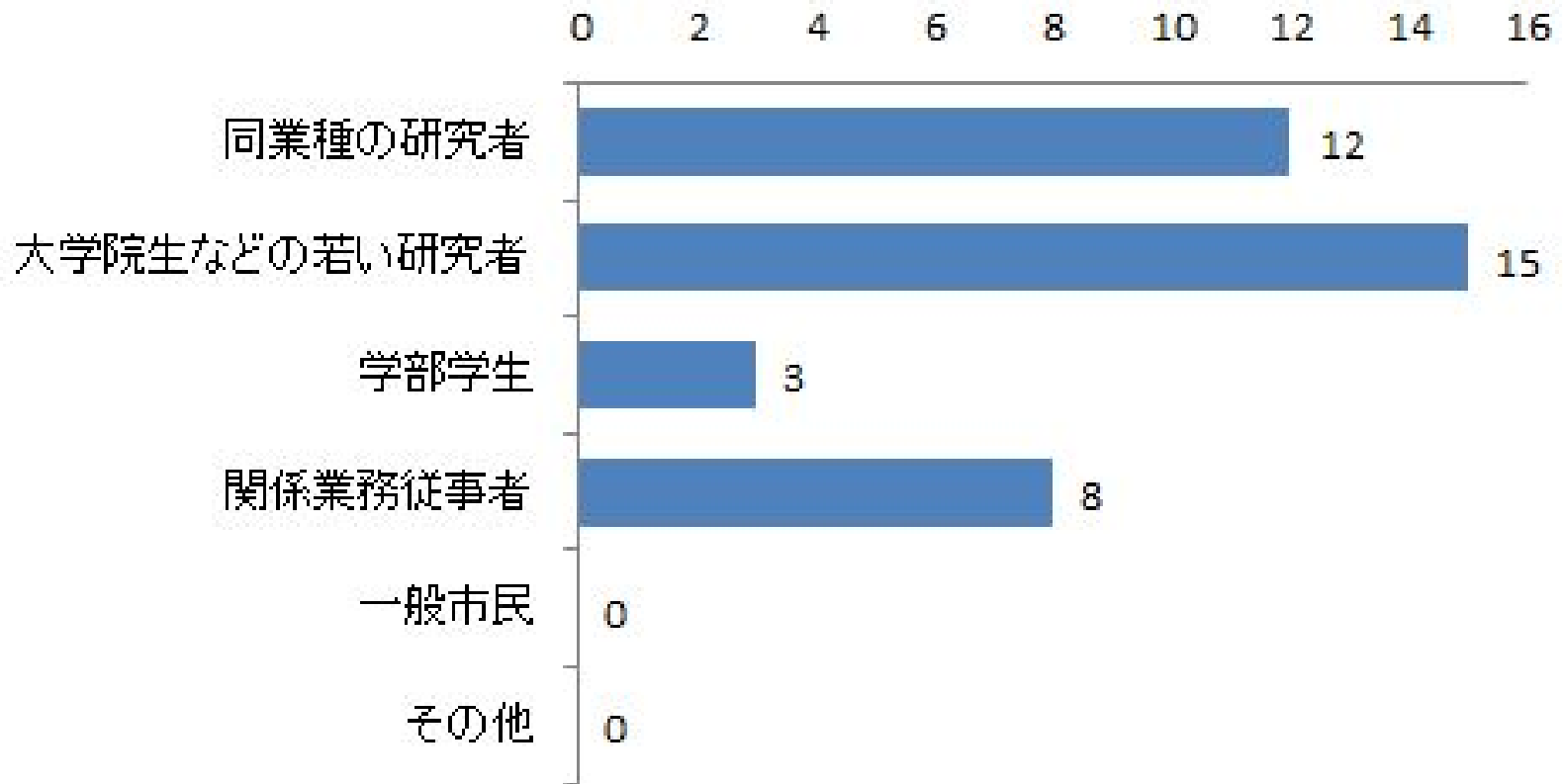
# 人気論文著者へのアンケート

ご著作論文の取り寄せが依頼が多かったことについて、どう思われますか？（複数回答可）



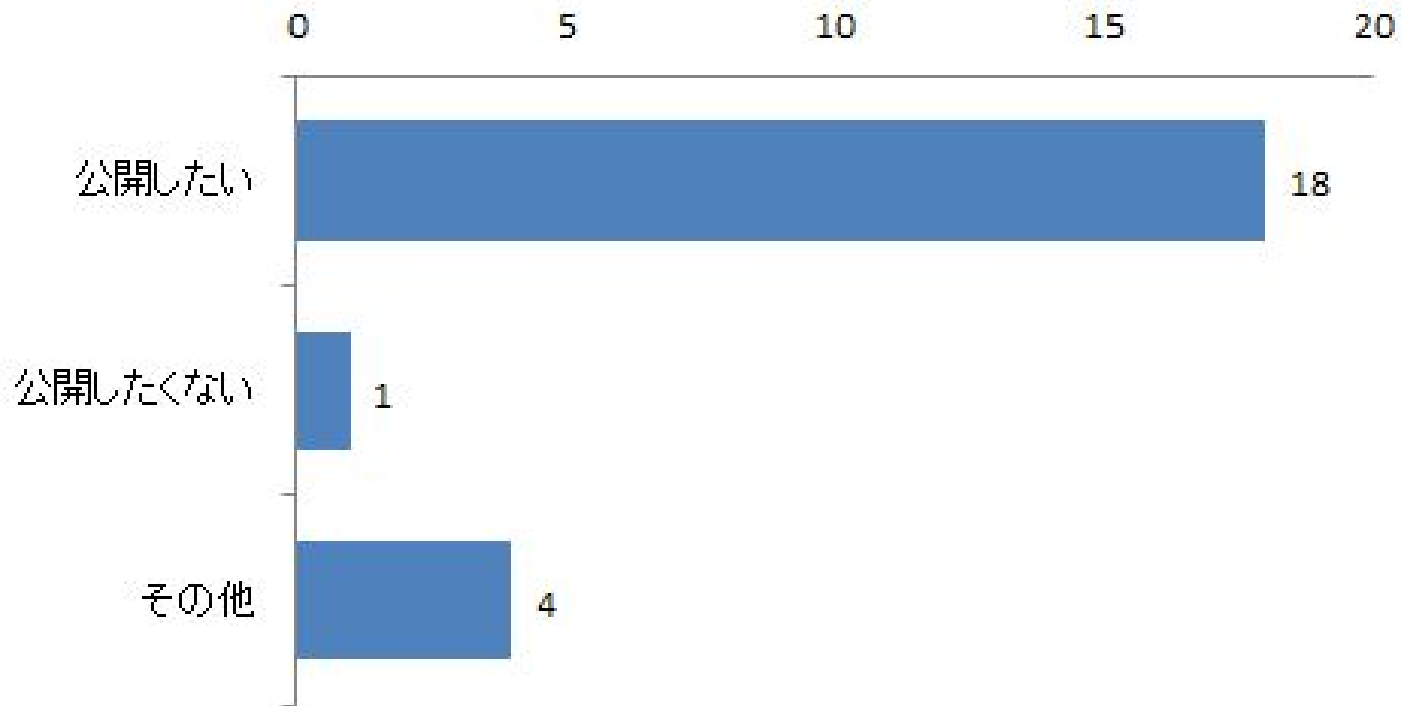
# 人気論文著者へのアンケート

読者はどのような層の人々だと思われますか？  
(複数回答可)



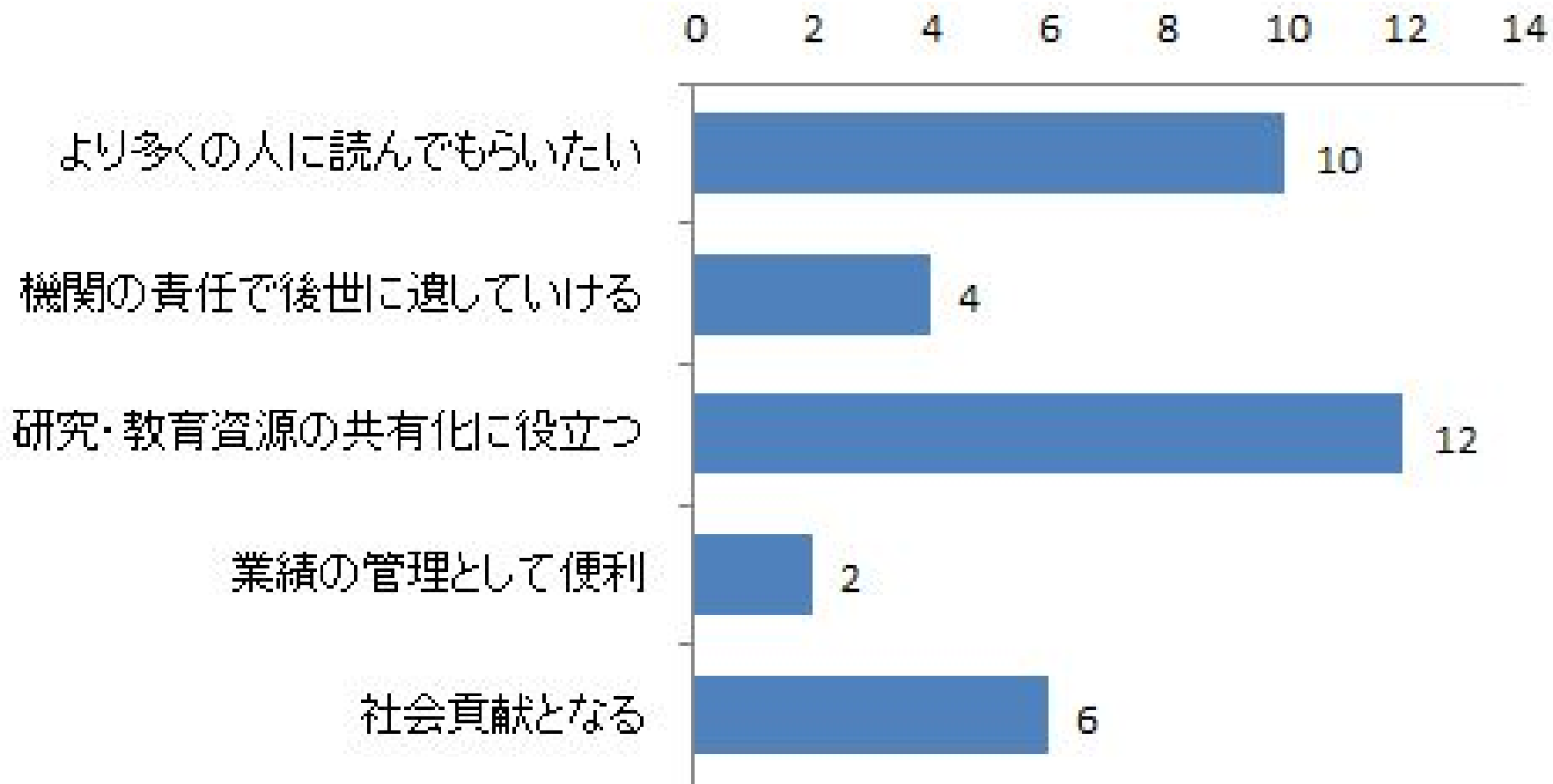
# 人気論文著者へのアンケート

(著作権上許容される範囲で)あなたの論文をご所属機関のサイトで無料公開することについて、どう思われますか？(複数回答可)

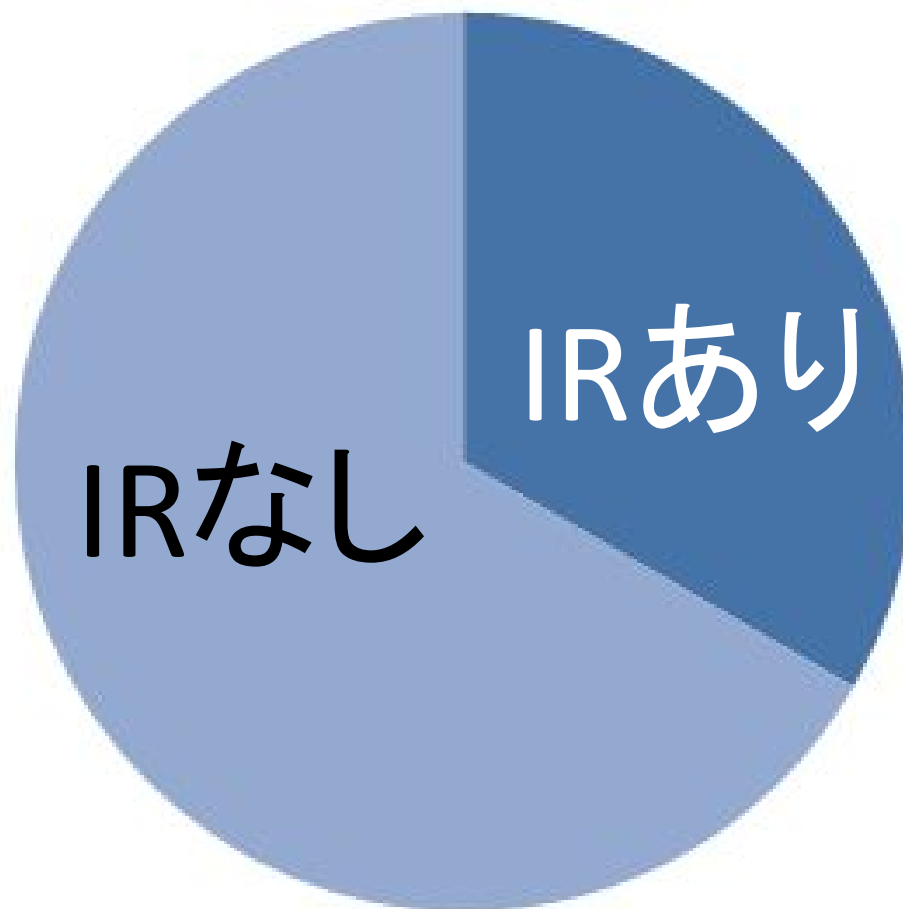


# 人気論文著者へのアンケート

## 公開したい理由(複数回答可)



「公開したい」、しかし・・・





# I'II チーム

IR業務とILL業務の接近を目指すチーム、  
MLとブログ開設



The screenshot shows the website for I'II (IRcuresILL+). At the top is a blue header with the I'II logo and the text "IRcuresILL+". Below this is a white section with the title "Open Access Week 2009" and the date "2009年8月29日". A sub-header reads "今年のOpen Access Weekは平成21年10月19日～23日です！". Below this is a horizontal banner with an orange background and a lock icon, containing the text "オープンアクセス週間 2009年10/19～10/23" and the URL "openaccessweek.jp". The main content area contains two paragraphs of text. The first paragraph states that during the week, events related to the open access movement will be held worldwide, and the I'II team will participate in the IRcuresILL project's publicity campaign. The second paragraph mentions that last year's event was held on October 14th as "Open Access Day" in various locations, but this year it is expanded to a week. It also notes that the 2009 event is being held in the Netherlands, with the Japanese host being MyOpenArchive, and encourages participation. At the bottom left of the main content area is the text "SUG". On the right side of the page is a vertical orange sidebar with a lock icon, the text "オープンアクセス週間", the dates "2009年10/19～23", and the URL "openaccessweek.jp". Below the sidebar are two links: "プロフィール" (Profile) with a sub-link "» わたしたちは" (We are), and "カレンダー" (Calendar).

IRcuresILL+

## Open Access Week 2009

2009年8月29日

今年のOpen Access Weekは平成21年10月19日～23日です！

オープンアクセス週間 2009年10/19～10/23  
openaccessweek.jp

会期中は世界中でオープンアクセス思潮に関連したイベントが集中開催される予定で、I'IIチームも、IRcuresILLプロジェクトの広報キャンペーンで参加します。

昨年は10月14日を「オープンアクセスの日」として同様のイベントが各地で開催されましたが、今年は週間に拡大。オランダではさらに2009年はオープンアクセスイヤーだそうです。Open Access Weekの日本のホストはMyOpenArchiveさん。盛り上げて行きましょー！

SUG

オープンアクセス週間  
2009年10/19～23  
openaccessweek.jp

プロフィール  
» わたしたちは

カレンダー

# OAWキャンペーン

ILL利用者にオープンアクセスの存在を周知するポスター

OPEN ACCESS WEEK  
2011  
www.openaccessweek.org

ちょっと待って！  
学外への文献複写  
申し込みの前に

読みたい論文は、Google検索から今すぐ入手できるかも！

大学のウェブサイトなどで、研究記事や、学外文献複写申請書(オンライン)をダウンロードし、必要なのは学外文献の複写依頼が迅速にすすんでいきます。

大学のウェブサイト上のオープンアクセス文献  
3,000,000

Springer Link  
4,000,000

ScienceDirect  
3,000,000

Wiley  
InterScience  
3,000,000

依頼文献を受け取った研究者にSAを奨励するチラシ

OPEN ACCESS WEEK  
www.openaccessweek.org

学外文献複写サービスをご利用のみならずへ

あなたの研究論文も、  
読みたくても  
読めない人がいます

機関リポジトリから、新たな読者へ！

Google検索から読めるようになり、研究の視認性が向上します。

学術は、時代と地域を超えた人類の共有資産です。しかし、世界の大学・研究機関では、複写購入予算の縮減などにより、研究に必要となる入手がますます困難な状態になってきています。これに対し、あらゆる学術文献に無料でオンラインアクセスできるようにしようという、筆者の皆さんからの声浪「オープンアクセス運動」が盛んです。あなたの研究論文を読みたい人も読めない人がいます。著作を大学のウェブサイト(機関リポジトリ)からオープンアクセス公開しませんか？

オープンアクセス論文の数は、年々増加傾向にあり、11月11日(金)の国際オープンアクセスの日です。

Open Access, Free and Online, V. (2002) Seminar, Open Access/ Copyright of the Council of Europe, Centre for Innovation, Research, Culture Impact, 2002, Open Access/ Bulletin 20 (1), pp. 20-21.

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/oaweb/>

ILL@curdl



# IRcuresILLプロジェクト2年間の 委託事業期間を終えて

オープンアクセスを機関リポジトリ担当者  
だけにまかせておいていいのか？

- DRFによる課題意識の継承
  - 機関紙による図書館界全体へのアドヴォカシー
  - オープンアクセス週間(10月18～24日)への協賛

rliaisonプロジェクトについて

# rliaison (リポジトリ・リエゾン) プロジェクト

小樽商科大学、帯広畜産大学、北海道大学ほか

- 平成22年度CSI委託事業領域2応募(→不採択)
- ほそぼそと実施
- 実践と、公開メーリングリストでの情報共有

# liaison (リポジトリ・リエゾン) プロジェクト

組織的な  
意識喚起活動

ふたつのアプローチにより  
実現をめざす

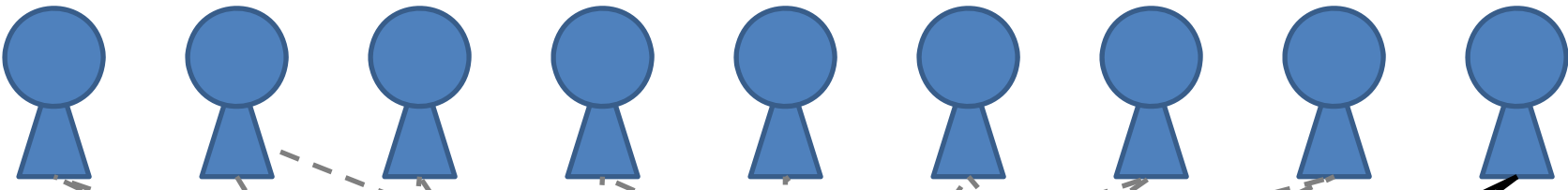
義務化方針を含む  
制度づくり

IRのコンテンツ拡充のためのメソッド開発＋実践

インターネット時代に希薄化していく  
教員との関係回復、維持

# 専属司書制度(小樽商科大学)

小樽商科大学教員128名



1教員に対し、2図書館員を担当としてつける = 「顔が見える」化

“Barrelをはじめ、図書館のサービス等についてのご質問、ご要望等はすべて私が承ります”



Barrelチーム(情報整理係、情報サービス係、情報普及係)

年に1度、必ず研究室を訪問(御用聞き)

- 図書館への要望の聞き取り
- 新しいサービスなどの紹介
- DB講習会などの案内
- 推薦図書の聞き取り
- パスファインダー作成のための聞き取り
- 直近1年間の発表論文の抜刷を回収
- 図書館アンケート

Barrelに登録

集めた抜刷は、教員著作として閲覧室に保存(著作権上、Barrelに登録できなかったものも含めて)

図書館運営、サービスに反映



# IRだけではなく、図書館サービス 全域にわたってヒアリング

- 図書館から新しいサービスのご案内
- DB講習会などの案内
- 「授業ガイド(パスファインダー)」のための聞き取り
- 直近1年間の発表論文の回収
- 図書館へのご意見・ご要望



**図書館運営、サービスに反映**

# 図書館職員在所感

全体的に、Barrelの活動にも、授業ガイドにも好意的な先生でした。とても有意義な訪問だったと思います

Barrelについても授業ガイドについても全体的に好感触で、私の拙い話にも丁寧に応じてくださいました

とても感触がよかったです



学科の事情も聞くことができ有意義でした

こんな取り組みをするのも仕事が増えて大変ですねとおっしゃっていました。

先生の研究生生活についてなど、もう少しお話を聞ければよかった

ゼミの様子や先生の図書購入への希望など、図書館にとって参考になる情報も多数得られました

# まとめ

やってよかった、御用聞き

リポジトリは、図書館職員と教員との  
距離を近くし、相互の理解を深めることに  
大いに寄与している